

ずいそう

ザ・ベストヒットスイーツ！

天 児 り か



好きなことは？趣味は何か？ストレス解消は？と聞かれた際、真っ先に思い浮かぶものが私にとっては「食」である。嬉しいとき、楽しいとき、悲しいとき、辛い状況下でもお腹は空くし、美味しい食事を摂って、お腹と心が満たされればなぜかパワーが出てくる。また、休日に紅茶と好きなお菓子を食べながら家族や友人と過ごす時間も私にとっては幸せなひと時である。毎週、次は何を食べようかと考え、美味しいものを誰かと一緒に食べながらおしゃべりする時間が幸せであり、明日からもまた頑張ろうと思えるのだ。

普段、私はベルトコンベヤの営業をしており、特殊な密閉式吊下げ型コンベヤの営業活動や発表会で全国各地を駆け回っている。全国を回って行くなかで自然と地域ごとの、ご当地と呼ばれる食べ物やその地域で話題になっている食に触れる機会が多い。

また、大学時代には青春18きっぷを利用し各地を電車で回り、観光地やその地域で美味しいと言われる食べ物を自分で調べ、また地元の方やタクシードライバーの方から集めた情報を基に自ら足を運んで食べ歩いてきた。

社会人になった現在でも、機会を伺い有給を取得しては、全国を旅行して各地の美食に触れてきた。

そんな中で、今回私はこれまで足を運んできて「これは美味しい！」「ぜひ食べて欲しい！」と感じた食べ物、中でも私の大好物であるスイーツに着目して、いくつかご紹介していきたい。

まずご紹介する一品目は岐阜県八百津町の栗きんとんだ。数多くの美味しい栗きんとんの老舗が並ぶ八百津町の中でも今回、私がご紹介したいお店は明治創業「元祖 栗きんとん 緑山老舗」の栗きんとんである。こちらは現場のお客様に紹介され知ったお店なのだが、現在、六代目が跡を継いでおり、こちらのお店が美濃地方で一番初めに栗きんとんを作り出したお店と言われている。関東近郊の栗きんとんという私はお節料理に入っている栗やサツマイモを使った粘り気のある栗きんとんを想像していたのだが、中部地方では炊いた栗に砂糖を加え、茶巾で絞って形を整えた和菓子のことをそう呼ぶらしい。一口、口に入れると繊細で甘さ控えめな栗きんとんが口の中でじゅわっと溶け



写真—1 栗きんとん



写真—2 栗きんとんを狙う愛犬

て広がっていく。まさに上品そのものである。また、栗自体の粒が残っているので触感も同時に楽しめる。お店によって甘さや触感が変わってくるので、食べ比べをしてご自身の好みの味を見つけてみるのも良いかもしれない（写真—1, 2）。

二品目に神奈川県横浜市にある「Atelier RONDE」（アトリエロンド）のロンドの足跡と呼ばれるクッキーを紹介したい。店内は猫をモチーフにした内装になっており、ショウウィンドウにはケーキや洋菓子など様々な種類のお菓子が並ぶ。お店はシェフとその奥様で切り盛りしていて、長年クッキーの名店で知られる洋菓子店で修行を積んだシェフの作る猫の足跡の形をしたクッキーはサクッと美味しく、甘さ控えめで絶品だ。一箱でアプリコットとチョコレートの二種類の味

が楽しめる。少し贅沢をして二枚重ねて食べてみるのもおすすめだ。予約販売がメインで毎月すぐに売り切れてしまう程の人気ぶりのため、手に入った際には一枚一枚大切に味わって食べている。

三品目に宮城県仙台市にある「村上屋餅店」のづんだ餅だ。明治創業の老舗で先祖代々伊達家御用達の菓子司をされていたという歴史のあるお餅屋である。こちらのお店がずんだ餅発祥のお店と言われている。注文を受けてからつく弾力のあるもちりとした出来立てのお餅と、豆のうす皮を一つ一つ取り除く作業をした舌触りの良い鮮やかな黄緑色をしたクリーミーなづんだを初めて食べた際には衝撃を受けた。ちなみに、こちらのお店では「ずんだ」ではなく「づんだ」と呼ぶらしい。諸説はあるようだが、豆を打ってつぶすという「豆打（づだ）」がなまって「づんだ」になったと言われているようだ。是非、仙台に訪れた際には、ずんだ餅発祥の味を味わっていただきたい。

四品目に沖縄県那覇市にある「うなりざき」の紅芋サーターアンダギーを紹介したい。こちらも現地の方に教えてもらったのだが、沖縄のおばあが営業している地元の人に愛されるお店である。紅芋サーターアンダギー種類のための販売となっていることも職人意識の高さが窺える。外はサクサクで、二つに割ってみると紅芋そのものの色をしており食欲をそそられる。紅芋の香ばしさを感じるさっぱりとしたサーターアンダギーは絶品だ（写真—3）。

また、サーターアンダギーは生地を油で揚げるとチューリップの様に生地が割れる。その様子がパッと



写真—3 紅芋サーターアンダギー

咲いた笑顔の様に見えることから沖縄では福を呼ぶ縁起物としても親しまれている。お店は民家の一角にあり分かりにくいですが、沖縄に行った際にはおばあのサーターアンダギーを目当てに足を延ばしてはいかがでしょうか。

ここまでいくつかのお店を紹介したが、他にも沢山紹介したいお気に入りのスイーツがある。

今回、執筆の内容を考えるにあたり、お気に入りのお菓子店の話を上司にしたところ、「営業トークもそのくらい饒舌に話せるように！」と叱咤激励を受けた。

これからも好きなことに情熱を注ぐよう、営業にもより一層情熱を注いでいきたい。

そして今週末もお気に入りのお供を楽しみに明日からもまた頑張っていこう。

——あまこ りか

古河産機システムズ(株) コントラクト本部 プロジェクト営業部——